

その他相談業務

地域福祉に資するため、住民への相談支援の充実などから、うるま市社会福祉協議会にて、身近な相談専門員としてコミュニティソーシャルワーカー（CSW）を配置しています。

また、住民それぞれが互いの人権を認め合い尊重していくことが大切であることから、人権教育・啓発活動を行うとともに「うるま市権利擁護センター（うるま市社会福祉協議会内）」を設置し、日常生活自立支援事業として認知症高齢者・知的障がい者、精神障がい者等のうち判断能力が不十分な方を支援しています。

（１）地域ふれあい相談支援（うるま市社会福祉協議会）

住民が地域で安心して暮らしていくために、身近な地域で健康づくりや福祉に関する総合的な相談ができ、また、複雑化複合化した課題を抱える者についても、生活を支えるため必要な福祉サービスの情報提供など、一人ひとりにあった支援と一緒に考えていく相談窓口をうるま市社会福祉協議会に設置し、基幹福祉圏域ごとに相談専門員コミュニティソーシャルワーカー（CSW）を配置しています。

１．コミュニティソーシャルワーカー（CSW）の配置（７名）

総合的な相談及び支援を行う窓口コミュニティソーシャルワークを行う専門職員を配置し住民の相談に対応した。

- ・相談業務全域担当 ２名
- ・具志川地区 ２名（具志川東民児協地区、具志川西民児協地区）
- ・石川地区 １名（石川民児協地区）
- ・勝連地区 １名（勝連民児協地区）
- ・与那城地区 １名（与那城民児協地区）

２．健康・福祉に関する総合的な相談窓口

住民の身近な相談窓口としてうるま市社会福祉協議会にて、相談窓口を設置している。

●相談支援件数(延べ)：1,694 件

相談支援実人数 ： 572 名(内今年度新規相談人数:372 名)

ア．相談方法（延べ）：1,694 件

来 所	193 件
電 話	811 件
訪 問	318 件
そ の 他	372 件

イ．相談内容別（延べ件数）： 2,056 件（複数選択あり）

病気や健康障害のこと	339 件	税金や公共料金等の支払いについて	12 件	地域との関係について	115 件
家賃やローンの支払いのこと	33 件	仕事上の不安やトラブル	8 件	介護の事	128 件

仕事探し、 就職について	62 件	子育ての事	44 件	食べるものがない	289 件
家族との関係性 について	78 件	DV/虐待	28 件	その他	236 件
ひきこもり不登校	51 件	収入・生活費の事	403 件		
住まいについて	226 件	債務について	4 件		

ウ.相談連携先(延べ件数) 件数： 2,083 件(複数選択あり)

本人	112 件	財務部(市民・資産・納税)	0 件	成年後見・中核機関	2 件
家族	126 件	国民健康保険課	1 件	保健所	2 件
障がい福祉課	112 件	その他行政部署	28 件	民生委員・児童委員	231 件
介護長寿課	7 件	パーソナルサポート	191 件	ひきこもり支援センター	0 件
子育て世代包括支援センター	76 件	地域包括支援センター	319 件	医療機関	35 件
保護課	112 件	基幹相談支援機関	16 件	警察	8 件
健康支援課	2 件	障害者相談事業の相談機関	24 件	司法関係の機関	1 件
住宅部署	0 件	子ども家庭総合支援拠点	2 件	居宅介護支援事業所	6 件
教育委員会または学校	21 件	利用者支援事業の相談機関	4 件	その他	340 件
自治会	305 件				

エ.出張相談会の開催

島しょ地域である津堅地区において、年3回の出張相談会を開催。相談会では、CSW において相談ブースの設置及び個別訪問を行い、地域住民の困りごとについて把握をおこない、支援へとつなげている。

3.地域づくりの取り組み

ア.地域支援関係者のネットワーク構築に関する事業

- ① 地域相談支援員連携ネットワーク会議(地域カンファレンス)の開催 【 6 回 】
- ② 中学校区生徒連絡協議会への参加 【 4 回 】

イ.支えあい委員会や住民活動等への支援

- ① 支えあい委員会、小地域福祉活動グループ定例会への参加 【 312 回 】
- ② 地域懇談会の開催 【 3 回 】

各基幹福祉圏域において懇談会を開催し、地域の抱える福祉課題について、地域住民及び地域の支援者、関係機関と話し合いを持ち地域の活性化に繋げる取り組みを行っている。

ウ.地域づくり支援

【田場自治会】後期高齢者買い物支援

活動きっかけ:高齢者が多い地域であるため免許返納した方や足腰の悪い方から「困っている」という声があり、公民館に移動販売を呼べないかと?と民生委員、自治会長より提案があり活動を開始。ローソン沖縄本社、ローソンオーナー、自治会、社協にて協議を行った。

活動内容:ローソンセレクト商品と日用品の販売

日時:毎月第2火曜日・第3木曜日

期間:令和6年5月1日~令和7年3月31日

場所:田場自治会会議室

利用者:20人程度(ミニデイ月平均人数)

高齢者が主ではあるが、地域の子育て世代等多世代の利用も可能

【みどり町3・4、5・6丁目自治会】地域ボランティア活動

活動きっかけ:A型事業所より地域ボランティア活動をしたいとの相談があった。地域のちょっとした困りごとを(高齢者宅の草刈り)等をボランティアで行い、事業所のメンバーに「ありがとう」の声を積み重ねメンバーの自信にもつながるようにしたいとの提案があり活動を開始。自治会、事業所、社協と協議を行った。

活動内容:地域住民の困っていること(高齢者宅の草刈り等)や地域清掃

日時:隔週木曜日10時~12時

ボランティア団体:A型事業所 縁人

利用者:各自治会約2~3人

【東恩納自治】子育て世代の居場所

活動きっかけ:自治会と地域住民から、子供たちや親子の地域交流の場がなく、孤立してしまう家庭が区内でも多いため、子育て世代の居場所が欲しいとの相談があったことから、ボランティア団体の発足について支援を行っている。

活動内容:子育て世代の相談場所、こども達の体験の場、地域の居場所

日時:月1回程度(不定期開催)

場所:東恩納公民館

ボランティア団体:サファリ(スタッフ2名)

利用者:25人

【企業の地域支援】こども食堂立ち上げ

活動きっかけ:こども食堂に興味があり立ち上げを行いたいが、活動について具体的な活動をしている方とのつながりや情報提供、地域の自治会や農協との協力依頼をしてほしいとのことから、こども食堂を運営している方や自治会とのつながりを行い、活動に関する支援を行っている。

活動内容:こども食堂

日時:月1回程度(不定期開催)

場所:ぴよ市畑食堂(うるま市勝連平安名)

団体:カフーシー株式会社

(2)うるま市権利擁護センター(うるま市成年後見制度中核機関):うるま市社会福祉協議会

認知症、知的障害、精神障害のうち判断能力が不十分な方やそのご家族等が、地域で安心して生活を送ることができるよう権利擁護支援を行うとともに、誰もが利用しやすい福祉サービス利用援助事業、成年後見制度の利用を促進します。

①福祉サービス利用援助事業

誰もが安心して福祉サービスを利用できるようお手伝いする事業です。地域で生活されている高齢者や知的障がい者、精神障がい者などの方々が、安心して生活を送っていただけるよう、自分に必要な福祉サービスを選んだり利用するための手続きや契約をしたり、日常的なお金の管理などのお手伝いをします。(相談や契約までの手続きは無料となっていますが、契約後の支援については利用料が発生します。)

〔対象者〕

日常生活において自分で契約する時や金銭管理などに不安のある方が対象となります。

- ・判断能力が不十分な方(認知症と診断されていない方、療育手帳や精神保健福祉手帳を持っていない方も対象です。)
- ・契約の内容についてある程度理解できる方。(状態が重く、本事業の契約ができない方は、成年後見制度などの他制度を紹介します。)

〔サービス内容〕

1. 福祉サービス利用援助(福祉サービス利用のためのお手伝い)

- ・どんな福祉サービスが利用できるのか、どのように利用すればよいのかを分かりやすく説明します。
- ・福祉サービスの利用や、利用をやめる際の手続きのお手伝いをします。
- ・福祉サービスの利用料の支払いの代行をします。
- ・今利用している福祉サービスへの疑問や不満などを解決するお手伝いをします。

2. 日常的な金銭管理(日常的な金銭管理のお手伝い)

- ・年金や福祉手当がきちんと振り込まれているか確認するお手伝いをします。
- ・生活費を預金の中から引き出したり、預金・解約の代行や代理をします。
- ・病院への医療費の支払い手続きのお手伝いをします。
- ・社会保険料、電気・ガス・水道料金などの公共料金の支払い手続きのお手伝いをします。
- ・日用品を購入する代金の支払い手続きのお手伝いをします。

3. 書類等預かり

- ・預金通帳や年金証書、保険証書、不動産権利証、契約書、実印、銀行印、カードなどの大切な書類等をお預かりして保管します。

〔サービス開始までの流れ〕

相談受付 → 訪問調査・調整 → 支援計画の作成 → 契約 → サービス開始

〔利用料について〕

相談や契約までの手続きは無料です。契約後の支援は利用料が必要になります。

一般世帯 : 1回1時間まで1,200円

生活保護世帯：１回１時間まで４００円

※１時間を超えた場合は３０分ごとに４００円を加算、交通費として１km当たり１０円を徴収します。

ア.実利用人数

令和６年３月末現在

実利用人数	36人
-------	-----

イ.相談援助延べ件数(問い合わせ・相談援助件数)

内 容	本事業の利用に関するもの				合 計
	認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	不明・その他	
問い合わせ件数 (制度、事業について)	2件	0件	1件	8件	14件
初回相談件数 (初回相談受付)	4件	3件	5件	0件	22件
上記以外の相談 援 助 件 数	651件	997件	2,232件	0件	3,912件
合 計	657件	1,000件	2,238件	8件	3,948件

※ 不明・その他→(例) 障害者認定等を受けていない方など

ウ.契約締結件数

※ ()内は生活保護人数

	認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	そ の 他	生活保護受給者 (再 掲)	合 計
契 約 者 数	10(9)件	11(4)件	15(11)件	0(0)件	(24)件	36(24)件
新規(R4年度) 契 約 者 数	1(1)件	0件	0(0)件	0件	(1)件	1(1)件

エ.生活支援員数

支援員登録数	18人(うち活動者数※14人)
--------	-----------------

※令和５年３月実施報告書より

オ.支援状況

生活支援員対応状況(定期支援)	173件
専門員対応状況(訪問調査・金銭管理支援・福祉サービス利用援助等)	3912件

(3) ボランティアセンター（うるま市社会福祉協議会）

うるま市社会福祉協議会では、ボランティアセンターを設置しボランティア活動の支援や推進をおこなっております。

ア. ボランティア活動の相談・登録・斡旋

相談件数	250件	依頼件数	63件	斡旋	783人
新規登録者数（R5）	団体：7団体（87人）／個人：20名				
現在の登録者数（3月末現在）	延 99 団体（4,242 人）				

イ. ボランティア活動に関する情報の収集・提供

情報収集・提供	330 件
---------	-------

- ・ボランティア団体、個人ボランティア、自治会等からボランティア受け入れに関する情報の収集
- ・登録ボランティア団体、個人ボランティア、市内中学校等へボランティア募集について情報提供
- ・登録ボランティア団体、個人への助成金情報提供「りゅうぎんユイマール助成金」「麒麟財団」「キリン・地域のちから応援事業」「コープおきなわボランティア団体援助金」

ウ. ボランティア活動に関する広報・啓発 614 件

① ボランティア募集に関する広報

依頼先	件数
市 行 政	8
自 治 会 関 係	20
学 校 関 係	84
保 育 園	0
地 域 団 体	29

依頼先	件数
児 童 関 係 団 体 ・ 施 設	0
障 が い 関 係 団 体 ・ 施 設	0
高 齢 者 関 係 団 体 ・ 施 設	0
そ の 他 （ S N S ）	98
個 人	375

エ. ボランティア活動に関する調査・研究

- ・中部地区社会福祉協議会連絡協議会ボランティア部会（9 回）
- ・社会福祉協議会、北・中・南ボランティア担当合同研修会
- ・ボランティア受け入れ研修（ボランティアが力を発揮するためのポイントを学ぶ）
- ・市町村における包括的支援体制づくり推進セミナー
- ・第 2 回包括的な支援体制づくり推進セミナー
- ・令和 5 年度福祉教育推進員連絡会
- ・令和 5 年度福祉教育推進セミナー（「学校」「地域」「社協」がつながる福祉教育を目指して）
- ・オンライン de 福祉教育～全国の福祉教育推進員が集まって、福祉教育の学び×出会いを広げよう～
- ・災害ボランティアセンター運営研修会

オ. ボランティア団体等の組織化・活動に関する支援

- ①うるま市ボランティア団体活動支援助成事業（赤い羽根共同募金配分金事業）
- ②うるま市ボランティア連絡協議会への活動支援
- ③うるま市こども体験事業（沖縄県社会福祉協議会 社会福祉振興基金助成金事業）
- ④ボランティア保険の加入促進
- ⑤善意銀行活動・フードドライブ窓口の設置

【善意銀行活動受付 51 件】

チャイルドシート・紙おむつ・生理用品・こども用かけ布団・布団カバー・冷蔵庫・洗濯機・ガスコンロ・古着・テレビ・ぬいぐるみ・玩具・帽子・タオル・ベビー用品・生理用品・文房具・ランドセル・こども、大人用おむつ・ヒーター・地球儀・歯ブラシ・電気コンロ・電気ポットを関係機関・団体・困窮世帯等へ配布

【フードドライブ受付 182 件】

企業・個人より寄贈があった食料品を子ども食堂、関係機関・団体・困窮世帯等へ配布

・夏のフードドライブキャンペーン 令和 5 年 7 月 24 日～9 月 8 日

協力：市内社会福祉法人 11 ヶ所、認定こども園、行政

・冬のフードドライブキャンペーン 令和 6 年 2 月 14 日～3 月 14 日

協力：市内社会福祉法人 12 ヶ所、行政

カ. 福祉教育の推進

①ボランティア・福祉学習、体験への支援活動

実施回数：延べ 67 回・21 校

〔対象〕

市内小中学校・県立高校 等

〔内容〕

- ・福祉について、自分たちの暮らす地域について
- ・当事者体験発表、疑似体験
- ・視覚障がい者の理解体験、アイマスクを着用しての折り紙、食事体験
- ・点字学習、アイマスク歩行体験
- ・福祉講話（盲導犬ユーザー/車いすバスケット選手/手話伝達人）

②ボランティア活動・福祉教育等に必要な資材の貸与 （件）

プロジェクター	IC レコーダー	DVD 福祉教材	アイマスク	デジタルカメラ
0	0	0	60	0
モニターケーブル	点字版	ボランティアサロン貸出		
0	40	173		